

*第1回会合はオープン(無料)にしております。ご関心をお持ちの方は体験参加をご検討ください。

第5期 オープン・イノベーション 推進者交流会議

—オープン・イノベーション(OI)の推進による課題解決、テーマ創出から
新商(製)品化・新事業開発の革新と高付加価値の創造—

■ 開催主旨 ■

これまでの日本企業は自前主義によるイノベーションを展開してきましたが、加速する高付加価値の創出に限界がみられ、オープン・イノベーション(OI)の重要性がより一層高まってきています。この状況を踏まえ、「課題解決」「テーマ創出」から「新商(製)品開発」「新事業開発」の革新をめざすべく、OIに大きな関心を持つと共に実際に取り組む企業が増えてきております。当会では、各社OI推進者が業種業態を超えて集い、OIの推進組織、マネジメント施策等について共同研究・分科会研究を行い、自社のOI推進に役立つ研究成果を共有する本交流会議を開設、今期で5年目を迎えます。

第5期本交流会議開催にあたり、趣旨にご賛同いただき、熱意あるメンバーの方々のご参加をお待ち申し上げます。

● 第1回会合 ● 2017年11月22日(水) 13:00～18:30 東京・表参道 IVY HALL

■ 基調講演 「ダイキン工業のオープン・イノベーションの取り組み」



- ・ダイキン工業の概要
- ・ダイキン工業の研究開発と協創イノベーションの実現
- ・ダイキン工業のオープン・イノベーションへの取り組み
- ・テクノロジー・イノベーションセンターの設立
- ・オープン・イノベーションの課題と方策
- ・オープン・イノベーションのこれからの展開

ダイキン工業(株) テクノロジー・イノベーションセンター 副センター長 河原 克己 氏

■ オリエンテーション

- ・第4期分科会研究成果の報告(6分科会)
～「OI推進の仕組み、活動」／「OIニーズ、課題の選出方法」／「テーマの創出1」／
「テーマの創出2」／「OIの多様な展開」／「OI推進共通課題の掘り下げ」～
- ・全体コーディネーター 兼 ファシリテーター、運営幹事の自己紹介
- ・本交流会議の進め方

■ 情報交換会(懇親会)

● 第2回会合 ● 2017年12月14日(木) 13:00～17:00 東京・表参道 IVY HALL

■ ゲスト講演 「イーライリリー社のオープンイノベーションについて」



- ・イーライリリーの研究開発体制
- ・イーライリリーの社外イノベーション戦略
- ・本社(アメリカ)と日本法人の役割
- ・日本イーライリリーのオープンイノベーション推進組織、仕組み、担当者の役割と評価
- ・日本イーライリリーのパートナーシーズの選定
- ・海外と日本のオープンイノベーションの違い、他

日本イーライリリー(株) 研究開発本部エクスターナル・イノベーション・ジャパン部長 本田 孝雄 氏

◆ 構成と推進体制

■ 全体コーディネーター 兼 ファシリテーター：

(株)ナインシグマ・ジャパン ヴァイスプレジデント **松本 毅氏**
(前 大阪ガス(株) 技術戦略部オープン・イノベーション室長)



【プロフィール】 1981年大阪ガス(株)入社。凍結粉砕機の開発・事業化、薄膜センサー研究開発、基盤研究所・研究企画リーダー、技術企画室課長、人事部担当部長、日本初のMOTスクール設立。2002年10月(株)アイさぼーと取締役MOT事業本部長。2008年9月大阪ガス(株)オープン・イノベーション担当部長(OI仕組み構築・立上げ実践)。2010年4月オープン・イノベーション室長。2016年4月から現職。特任教授・大阪大学大学院工学研究科附属「オープン・イノベーション教育研究センター」/特任教授・大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻/客員教授・神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科/客員教授・大阪工業大学大学院工学研究科/理事・一般社団法人「Japan Innovation Network(JIN)」/委員長・大阪市イノベーション支援補助金(産学連携補助)審査委員会/メンター(評議員)・大阪イノベーションハブ(OIH)/理事・産学連携学会(特定非営利活動法人)/委員・文部科学省科学技術・学術審議会[総合政策特別委員会]/委員・文部科学省科学技術・学術審議会「産業連携・地域支援部会」/委員・文部科学省「競争力強化に向けた大学的資産マネジメント作業部会」/委員・経済産業省特許庁「中長期的に自律的な産学官連携を行うための知財マネジメント在り方調査研究」/委員・科学技術振興機構(JST)自己評価委員会/委員・日本学術振興会「未来を創造するイノベーションサイエンスの創成」に関する先導的研究開発委員会/文科省・JST国プロ「健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス」事業化グループディレクター/「オープン・イノベーション推進者交流会議」(企業研究会)全体コーディネーター兼ファシリテーター

■ 研究アドバイザー：可能な限りご出席いただき研究討議に助言・コメントをいただきます。

P&Gイノベーション合同会社 グローバル事業開発部コネクト アンド デベロップ 日本・韓国ヘッド J.ラダー キリヤンナヤ氏

■ 運営幹事：メンバーを代表して本交流会議の企画・運営にご支援ご協力をいただきます。

(株)資生堂	技術知財部知財企画グループグループマネージャー	福西 宏忠氏
(株)村田製作所	新規事業推進部新規事業推進5課オープンイノベーション推進チームマネージャー	牛尾 隆一氏
DIC(株)	R&D本部オープンイノベーション推進グループマネージャー	生島 直也氏
サントリーグローバルイノベーションセンター(株)	研究部主任研究員	前川 知浩氏
日立化成(株)	イノベーション推進本部先端技術研究開発センタ戦略企画部部長代理	森 周子氏
(株)IHI	技術開発本部技術企画部つなぐラボグループ課長	今堀 郁枝氏

■ メンバー：O Iに強い問題意識を持たれる企業、研究機関の推進者の方々。

※本音ベースの Give & Take で議論を深めていただくため、相互に守秘義務を遵守いただける方。

◆ 本交流会議の特徴

1. オープン・イノベーションの目的、組織の役割機能、社内外の連携、仕組みづくりなど具体的進め方や新しい流れについて、ゲスト講演・先進事例研究から理解が深まります。
2. 知識、経験の交流を深めることにより業種・業界・組織の壁を越えた新しい発想や手法を学ぶことができ、また、共同研究(分科会)を通じて各社の現場で活かせる施策を共有します。
3. 単なる情報交換だけではなく、その背景にある実務に直結したノウハウの交換が行えます。また、社外のネットワークを広げ、パーソナルバリューの向上、メンバー企業間の技術交流にも繋がります。

◆ 研究の進め方

- 第1回会合 基調講演、第4期分科会研究成果の報告(6分科会)
- 第2回会合 先進企業の事例研究、グループ討議(研究テーマの抽出)
- 第3回会合 先進企業の事例研究、希望テーマによる分科会編成と討議・意見交流
- 第4回会合 先進企業の事例研究、分科会研究討議と意見交流
- 第5回会合 ゲスト講演あるいはメンバー事例、分科会研究
- 第6回会合 合宿研究会 分科会毎に問題意識の交流と共通課題の徹底討議
- 第7回会合 分科会研究 合宿研究会に続く研究テーマと議論
- 第8回会合 分科会研究 -最終会合に向けたまとめ-
- 第9回会合 分科会研究成果の発表と意見交流・全体討議

◆ 開催期間 2017年11月22日(水)~2018年7月11日(水)(毎月1回:全9回開催(合宿研究会含む))

会合日: 11/22(水)、12/14(木)、1/24(水)、2/21(水)、3/7(水)、4/13・14(金)・(土)〈合宿研究会〉、5/16(水)、6/6(水)、7/11(水)

時間帯: 13:00~17:00 会場: IVY HALL (東京・表参道)

◆ プログラム

会 合 日	研究テーマ／講演・討議内容	
第1回 11/22 (水)	<p>◆基調講演 ダイキン工業のオープン・イノベーションの取り組み ダイキン工業(株) テクノロジー・イノベーションセンター副センター長 河原 克己 氏</p> <p>◆第4期分科会研究成果の報告(6分科会) ◆全体コーディネーター 兼 ファシリテーター、運営幹事の自己紹介 ◆本交流会議の進め方 ◆情報交換会(懇親会)</p>	
第2回 12/14 (木)	<p>◆ゲスト講演 イーライリリー社のオープンイノベーションについて 日本イーライリリー(株) 研究開発本部 エクスターナル・イノベーション・ジャパン部長 本田 孝雄 氏</p>	研究テーマ抽出を目的に「メンバー交流シート」を基にしたグループ討議
第3回 '18 1/24 (水)	<p>◆ゲスト講演 オムロンのオープン・イノベーションへの取り組み オムロン(株) SDTM推進室長 竹林 一 氏</p>	〔分科会の編成〕 希望テーマによる分科会を編成。これからの研究テーマと進め方等を討議
第4回 2/21 (水)	<p>◆ゲスト講演 ホンダのオープン・イノベーションへの取り組み ～新拠点HondaイノベーションラボTokyoとR&DセンターX～ (株)本田技術研究所 執行役員 R&D センター X(エックス) 担当 脇谷 勉 氏</p>	〔分科会討議〕 研究テーマに基づく問題意識の討議と意見交流
第5回 3/7 (水)	<p>ゲスト講演あるいはメンバー事例におけるオープン・イノベーション推進体制と展開事例のご紹介</p>	
	〔分科会討議〕 研究テーマに基づく問題意識の討議と意見交流、合宿研究会に向けた準備	
第6回 4/ 13(金)・14(土) 合宿研究会	<p>◆合宿研究会 分科会を中心とした研究、集中討議</p> <p>①前回に引き続き、分科会に分かれて、メンバー各社の課題・問題意識の交流 ②上記①の交流で抽出された共通重要課題を浮き彫りに研究討議、意見交流を行う ③合宿研究会以降の分科会研究の方向を決める ④各分科会より今後の分科会の研究討議の方向を発表し、意見交流</p>	
第7回 5/16 (水)	<p>分科会を中心とした研究、集中討議 合宿研究会に引き続き、分科会の研究課題、関連したテーマの討議</p>	
第8回 6/6 (水)	<p>分科会を中心とした研究、集中討議 —最終会合に向けたまとめ— 第3回～第7回で研究討議した議論を整理し、課題解決策、現場で活かせる提案にまとめる。</p>	
第9回 7/11 (水)	<p>分科会研究成果の発表と意見交流</p>	
	<p>◆分科会研究(グループ研究・討議)</p> <p>下記研究課題の例示を参考に問題意識の強い希望テーマに分かれて分科会を編成。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分科会研究課題の例示</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OI推進の仕組み、活動 <ul style="list-style-type: none"> ・アイデア出し ・投資 ・イノベーションセンター 2. OIニーズ、課題の選出方法 <ul style="list-style-type: none"> ・阻害要因 ・具体施策 ・OI推進者の工夫 3. テーマの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・新事業開発プロセス ・ステージ毎のOIの活用 ・テーマ創出の要件 ・社会課題からのテーマ 4. OIの多様な展開 <ul style="list-style-type: none"> ・Webサイト ・アイデアソン/ハッカソン/フィールドワーク ・既存手法と+α手法 5. OI推進共通課題の掘り下げ <ul style="list-style-type: none"> ・OIの目的と取り組み ・社内連携 ・OIの効果 </div>	
	<p>今期の感想、これからの課題・問題の交流</p>	

◆ 第 4 期 オープン・イノベーション推進者交流会議 —研究経過—

会 合	研究テーマ／講演・討議内容
第 1 回	<p>■ 基調講演 パナソニック本社 R&D 部門のオープン・イノベーション ～ベンチャー投資・協業の取り組みと展開～ パナソニック(株) 全社 CTO 室 技術戦略部 (兼) コーポレート戦略本部 ベンチャー戦略室 ベンチャリング担当 主幹</p>
第 2 回	<p>■ ゲスト講演 東レにおけるオープンイノベーションの推進 東レ(株) オートモーティブセンター 主幹</p> <p>▶ グループ討議</p>
第 3 回	<p>■ ゲスト講演 オランダ・フードバレーでのオープン・イノベーション キッコーマン食品(株) プロダクト・マネジャー室 加工業務用・CB グループ</p> <p>▶ グループ討議</p>
第 4 回	<p>■ メンバー事例 IHIにおけるオープン・イノベーション推進体制と展開事例 (株)IHI 技術開発本部技術企画部 つなぐラボグループ部長</p> <p>▶ グループ討議</p>
第 5 回	<p>■ ゲスト講演 オリンパスのオープン・イノベーション オリンパス(株) 技術開発部門モバイルシステム開発本部 画像技術部研究 1 グループ 課長</p> <p>▶ 分科会の編成</p>
第 6 回	<p>■ 合宿研究会 Part 1 : 6分科会に分かれて、メンバー各社の課題・問題意識の交流 A: OI 推進の仕組み、活動 C-2: テーマの創出 B: OI ニーズ、課題の選出方法 D: OI の多様な展開 C-1: テーマの創出 E: OI 推進共通課題の掘り下げ</p> <p>Part 2 : 共通重要課題を浮き彫りにし、研究討議、意見交流 Part 3 : 合宿研究会以降の分科会研究の方向を決める Part 4 : 各分科会から今後の研究討議の方向を紹介し、意見交流</p>
第 7 回	<p>■ 分科会研究 分科会を中心とした研究、集中討議</p>
第 8 回	<p>■ 分科会研究 研究成果発表に向けてのこれまでの研究のまとめ</p>
第 9 回	<p>■ 分科会研究成果の報告と意見交流 A: OI 推進の仕組み、活動 C-2: テーマの創出 B: OI ニーズ、課題の選出方法 D: OI の多様な展開 C-1: テーマの創出 E: OI 推進共通課題の掘り下げ</p>

第 1 ～ 第 4 期参加企業

大阪ガス(株)	アサヒビール(株)	日東電工(株)	三井化学(株)	(株) LIXIL
P&G イノベーション合同会社	ヤンマー(株)	日立化成(株)	日本ゼオン(株)	コニカミノルタビジネスアソシエイツ(株)
(株)ナインシグマ・ジャパン	ブラザー工業(株)	経済産業省	(株) IHI	旭化成(株)
アサヒグループホールディングス(株)	ヤマハ発動機(株)	日立造船(株)	コスモ石油(株)	(株)フジクラ
ヤンマーホールディングス(株)	(株)ダイセル	三菱ガス化学(株)	日本電気(株)	(株)ファンケル
サントリーグローバルイノベーションセンター(株)	古野電気(株)	小林製薬(株)	積水化学工業(株)	(株)日立製作所
JX 日鉱日石エネルギー(株)	文部科学省	住友電気工業(株)	(株)日本触媒	(株)ジェイテクト
ハウス食品グループ本社(株)	DIC (株)	住友大阪セメント(株)	TOA (株)	キリン(株)
リコー IT ソリューションズ(株)	ライオン(株)	京セラ(株)	凸版印刷(株)	オムロンソーシアルソリューションズ(株)
武田薬品工業(株)	花王(株)	(株)トクヤマ	横浜ゴム(株)	旭化成エレクトロニクス(株)
(株)資生堂	パナソニック(株)	(株)リコー	(株)明電舎	
(株)デンソー	(株)村田製作所	(株)ブリヂストン	古河電気工業(株)	
帝人ファーマ(株)	宇部興産(株)	東京電力ホールディングス(株)	オークマ(株)	

◆ 第4期 参加者の声

- ・ゲスト講演が良かった。分科会も個人的興味の内容に掘り下げることができた。
- ・各社の担当者とは各会合でじっくり議論できる点が魅力。
- ・OIに関わる多くの方々とネットワーク構築できたのが有意義だった。
- ・他社の参加者の方と本音ベースでOIに関して議論ができた。
- ・先駆的企業の参加者の方々から様々な取り組み、課題等を教えていただいた。
- ・各社が苦勞している点、うまくいっている点の共有ができた。
- ・他社の課題、OIに対する思い、仕組み等が肌で直接感じられて参考になった。

◆ 第4期 分科会研究成果報告の一部抜き刷り

《A分科会》

OI推進の仕組み、活動

手法のグループ分け(アンケートより)

- 1) アイデア出し
…「アイデアソン、ハッカソン」「ユーザーバージョン」
- 2) 投資
…「コーポレートアクセラレーター」「VC、C-VC」
- 3) イノベーションセンター他
…「イノベーションセンター」「クリエイティブラボ」「ショントラ」「海外拠点」
- 4) 仲間募集
…「大企業ピッチ」「web公募」「マッチング会への参加」「マッチングサイトの利用」
- 5) リサーチ
…「技術仲介会社」
- 6) 共創N:N
…「共創プラットフォーム」「フューチャーセンター」
◆「共創プラットフォーム」という推進手法は第3期E分科会のためには記載はなく、新規手法
その他
…「よろず相談」、「デザインシンキング」、「原料等の取引先との共同研究」、「NEDO」、「大学寄付講座」、「展示会の利用」

手法のグループ分け(アンケートより)

小グループ	手法	企業数
1) アイデア出し	アイデアソン/ハッカソン	8
	ユーザー イノベーション	1
	コーポレート アクセラレーター	3
2) 投資	VC、CVC	2
	イノベーションセンター	7
	クリエイティブラボ	1
3) 仲間募集	ショントラ	2
	海外拠点	2
	大企業トップ	1
4) 仲間募集	Web公募	4
	マッチング会への参加	5
	マッチングサイトの利用	1
5) リサーチ	技術仲介会社	12
	共創N:N	0
その他	アイデアソン/ハッカソン よろず相談 NEDO 大学寄付講座 等	8

《B分科会》

OIニーズ、 課題の選出方法

テーマ

『OIニーズ、課題の選出の課題を分析し・・・』

分析項目

- ・ニーズの種類
 - ① 事業化スピードアップのため
 - ② 新事業創造のため
 - ③ 将来事業創造のため
- ・現状
 - (1) ニーズが出ない
 - (2) 事業化に向けてうまく先に繋がらない
→ 阻害要因のリストアップ
- ・解決策の提案検討
例えば 社内プロモーション、評価制度、費用対効果、etc
- TOP層、ニーズを出す側、受ける側それぞれの立場に分け
Goal : 解決策の発見・提案

議論の抜粋(OI推進者編)

- 1) 有効な機関/機能だと認知されていない(信用されていない)?
顕われる存在であるためのスキルをアップする
⇒ 口説く相手を見抜く、また口説き方を身につける
⇒ テマの組織体制を理解する、チャネルを増やす
⇒ 熱意を伝えるかや成功のシナリオを描く力を身につける
- 2) 自社内のネットワークが使えない
自社の強みを把握する(しかし、全部を推進者が把握するのは難しい)
⇒ 社内技術に詳しい人を把握する、技術領域の第一人者を知る
- 3) 社外ネットワークが使えない
知合う機会を増やす、チャネルを増やす。
⇒ 外部イベントに参加、自社協創イベント開催

《C-1分科会》

《C-2分科会》

テーマの創出

良いテーマって何?

- ・問題意識
アイデア出しやす、共有しやすい
・社会課題
アイデア出しやす、共有しやすい
・共創意識
アイデア出しやす、共有しやすい
・社会課題
アイデア出しやす、共有しやすい
・共創意識
アイデア出しやす、共有しやすい

アイデア創出ステップにおけるOIIの効果



1-1. メンバーのミッション

- 【分科会活動を通じて】
新事業のテーマ創出を成功させるために、
『やるべきこと』『必要なもの』を明らかにする。
- 【それぞれ自社に帰ってから】
分科会活動で得た成果を実績・活用する。

1-2. 実現したいこと

- ・ルートを通じて、ステークホルダーに新事業創出を実現したい
- ・自分の得意分野からの取り組みで、課題意識が高い
- ・OIIを通じて、ネットワークを築くことが可能
- ・社会課題から事業を創出する

《D分科会》

OIの多様な展開

2-2. 2017年活動の位置付け

OI手法の概要については前期に調査済

今期は「最新動向の付加・新たな手法の調査」として
分科会各社の情報や、参加企業以外の
ヒアリングをまとめて報告する

3. 進め方について

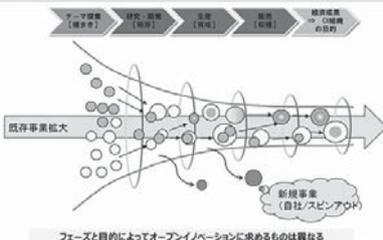
前期E分科会資料へ情報追加と、 フィールドワークを通じた情報収集

- ・既存手法の追加ディスカッション
- ・フィールドワークを通じた参加会社以外の情報収集
 - ① 旭化成CVC室訪問
 - ② NECファシリテート体験
 - ③ 戦略データベース研究所 鶴見先生講義
- ・+O手法の探索

《E分科会》

OI推進共通課題の 掘り下げ

1. 背景



2. 仮説

- 1) 各社共通課題の合意形成:
・背景: オープンイノベーションは広がりを見せ、相互認識は広がっている
一方で、バリエーションが少なく、このままではいずれ限界を来しかねない
結果に結びつける時期に来ているのではないかと
 - ・結果の前提: 「開発事業性」の仮説を立て、OI手法ごとに解析できないか
(※) 財分科会資料より引用
- | 担当 | 目標 |
|-----------------------|-------------|
| 会社(経営層) | 利益/投資 |
| 事業化推進者
(専任/兼任/パート) | 早く達成 質を向上 |
| OI推進者 | 導入、定着、発展させる |
- ① OI活動推進のフェーズ、実施(研究、開発、技術)部門で
社内課題への期待が高まっている
- ② 社内のOII活動
- ③ OIツールの活用で
推進
- ④ 研究開発生産性 = リターン
(製品開発まで含む) 投資額 × 時間

参加要領

正会員 **216,000**円 (本体価格200,000円)

一般 **237,600**円 (本体価格220,000円)

* 1社2名参加可能です。

参加費

* 分割・次年度支払いなど可能です。お気軽にご相談ください。

- 通信費・資料代・飲食費などの一切を含みます。
- 合宿研究会は別途実費をご負担いただけます。
- 個別に合宿研究会を開催する場合は別途実費をいただきます。

申込先

一般社団法人 **企業研究会** 担当：田口・井堀

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町M-SQUARE 2F

TEL : 03-5215-3512 FAX : 03-5215-0951

e-mail : taguchi@bri.or.jp URL : <https://www.bri.or.jp>

* ホームページからお申し込みください。[企業研究会 オープン・イノベーション推進者交流会議](#) 

FAXでお申し込み頂く場合は、下記申込書に必要事項をご記入の上、お送りください。
関係書類を郵送申し上げます。

* 本交流会議の詳細につきましては、お気軽に上記担当までお問い合わせください。

事業コード：
170171

2017/11/22 「第5期 オープン・イノベーション推進者交流会議」申込書

一般社団法人 **企業研究会** 御中

年 月 日

- 会合の趣旨に賛同し、下記により参加を申込みます。
- 参加検討中につき、第1回会合の体験参加を申込みます。

会社名	(フリガナ) -----	
会社所在地	〒 ー	
登録者名① 氏名	(フリガナ) ----- <input type="checkbox"/> 請求書をご希望の場合は✓をご記入ください。	部課・役職名
TEL&FAX	TEL: ()	FAX: ()
メールアドレス		
会社名	(フリガナ) -----	
会社所在地	〒 ー	
登録者名② 氏名	(フリガナ) ----- <input type="checkbox"/> 請求書をご希望の場合は✓をご記入ください。	部課・役職名
TEL&FAX	TEL: ()	FAX: ()
メールアドレス		

*2名までご参加できますのでご登録ください。

*お申込書にご記入いただきました個人情報は、本交流会議に関する確認・ご連絡及び当会主催のご案内等をお送りする際にご活用させていただきます。